

祝 詞

国務大臣 科学技術庁長官 中川 一 郎

高分子学会は、昭和 26 年 12 月、高分子科学技術の進歩発展を図り、学術文化の向上と産業の発展に資することを目的として設立されて以来、活発な活動を展開され、このたび 30 周年を迎えられましたことは、誠に喜ばしく存じます。ここに、貴学会の発展に尽力された方々に対して深く敬意を表するとともに、あわせてお祝いの言葉を申し上げる次第であります。

改めて申すまでもなく、天然資源に恵まれないわが国が今後、資源・エネルギー問題など困難な問題を克服し、経済の安定成長と国民生活の一層の向上、さらには世界の平和と繁栄に貢献していくためには、わが国唯一の資源とも言うべき知的資源を結集して、科学技術立国を目指し、科学技術の振興を強力に推し進めていくことが必要不可欠の要件となっております。

このため、政府といたしましては、56 年度を科学技術元年と位置付け、産・学・官の優秀な研究者の有機的に連携した流動研究システムによる創造科学技術推進制度を発足させるとともに、科学技術会議の調整の下で重要研究などを推進するため、科学技術振興調整費を設けるなどの積極的施策を講じてきたところであります。

こうした科学技術振興気運の高まりの中にあって、近年ますますその重要性を増しているのが、貴学会が長年その進歩発展に御努力されている高分子科学技術であります。

高分子科学技術は、人工臓器などの生体材料にみられるように国民の健康を守り福祉の増進を促すなど国民生活に深い関連を有するとともに、耐熱樹脂や導電性樹脂のような工業用材料にみられるように産業の発展に大いに寄与するものであります。特に、近年、バイオテクノロジーの分野で高分子科学技術の果たす役割はますます大きくなってきており、将来の科学技術を担う一大分野として各界から多大の期待が寄せられているところであります。

この意味で、高分子科学技術に関し優れた識見と深い洞察を有する研究者らにより構成される貴学会の果たされる役割には極めて大きなものがあります。

設立 30 周年を迎えられたこの機に、高分子科学技術の進歩発展のため貴学会が大いにその持つ能力を発揮されることをお願いするとともに、貴学会の一層の発展を祈念してお祝いの言葉いたします。

